

4

国際看護論演習「SDGs 解決策を考える」

プログラム責任者：准教授 アンガホッフア司寿子 (看護学部)



原則 6： 人々の国際市民としての意識を高める

原則 9： 持続可能性を推進する

1. 概要

看護学部の国際看護論演習では、国際的な視野に立ち、学生が主体となって保健・看護上の課題を見つけ、看護職の役割について考察できることを目標に掲げている。その中で、国連の持続可能な開発目標(SDGs)をベースとしたテーマを選び、看護学生だからこそ考える健康面に着目した解決策について、グループワークを中心に取り組んだ。

グループワークに先立って、講義ではSDGs採択までの歴史的背景を説明した。具体的には、まず学生のような若者が身近に感じて理解しやすいと思われる内容を考慮し、アフリカ大飢饉の際に英国や米国のミュージシャンが立ち上がり実践したチャリティ活動をその曲とともに紹介し、「自分ができるところをやるだけ。何も行動しないのは同罪。」というメッセージを動画で全員で視聴した。

Overview of Aims

- Japan's most needed climate actions goals 5,13,14,15, and 17
- Risk of the health problems accompanied with climate change

⇒Focus on goal 13

<Goal 13>
"I urgently take measures to confront a climate change and its influence"



Precautions against heat stroke ~Japan~

①Avoid heat

- Adjust the temperature and humidity
- Avoid the heat of day
- Cool clothes (Parasol・ Hat)
- Uchimizu
Sprinkling water to beat the heat



そのうえで、国連のミレニアム開発目標から持続可能な開発目標へ進化した点と意図、また国連のファクトシートから世界中で自分の知らない過酷な実状があることを学んだ。さらに、国内の企業や団体、地域で実際に行われている取り組みについて知り、SDGsが遠い国の話だけではなく実は身近であることの理解を深めた。

これらの情報を得たうえで、「国レベル、地域レベル、大学レベル、個人レベルと、健康に関連した課題の解決策を考えてみましょう」、「教員のこともビックリさせるような解決策を期待しています」と投げかけ、テーマの選定やそれに関連する目標の選択も含め、グループに委ねた。



学生は、自分達の生活の中の身近なところからシーズ（種）を見つけることができていた。そのトピックについて、グループワークを重ねて改めて自分たちでじっくり調べ、学際的な取り組みについて様々な情報を得て整理していた。自分も学びながら、そして自身の生活を客観的に見る力を養っている様子であった。学生が掲げる解決策は、既に実践されている取り組みを参考にして発展するものもあれば、独自の発想で切り込むもの、今日から個人レベルで心がけられるもの、と様々であった。プレゼンテーションではお互いのグループの発表で興味深かった点、感想や意見などのディスカッションの時間も十分にとり、フィードバックを行った。この科目で学ぶ前は「SDGsという言葉は聞くけど具体的なところまでは知らない」と語っていた学生が、地球で生きる一人の人間としての責任というところまで考え、正解はひとつではない自由な解決策をいきいきと共有することができていた



12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION

Overview

Sustainable Development Goal 12

- To ensure sustainable consumption and production patterns
- To ensure good use of resources, improve energy efficiency
- Ensure a better quality of life



Charge of the shopping bag

Shopping bag charge starts on July 1, 2020



<https://item.rakuten.co.jp/oku-wa/794633/>

<https://wowma.jp/item/248155499>

